

● 今年度の調査成果

- ① 「内郭」と仮称していた範囲(東西幅)が判明  
令和4年度調査において確認していた東西方向の区画溝(SD03)の延長及び北西コーナーを確認。  
→ 「内郭」の東西幅が約110mになることを確認。古代の官衙は1町(=60間、約109m)単位で造られることが多いことから、本遺跡が古代官衙関連遺跡である可能性がさらに高まった。
- ② 「内郭」範囲内建物の発見  
竪穴建物跡(SI12)、掘立柱建物跡(SB03)の2棟の建物跡を確認。掘立柱建物跡からは遺物はほとんど出土していないが、竪穴建物跡(SI12)からは多くの土器が出土しており9世紀の建物と考えられる。土器のほかに鉄製紡錘車も出土。  
→ 出土した遺物、建物跡の状況を細かく検討することで本遺跡の性格がより明らかに。
- ③ 新たな区画の可能性が高まる  
これまで、令和4年度調査で南北方向の区画溝(SD02)が北に伸びることから北側に区画がある可能性が考えられていたが、新たに南北方向の区画溝(SD05)を確認。  
→ 北側にも別の区画があり、本遺跡が複数の区画からなる大規模な遺跡である可能性が高まった。

● 今後の課題

- ① 遺跡の性格を絞り込むための遺構・遺物の確認  
役所や税を収納する倉庫建物群、馬小屋等の遺構や、施設名を示す墨書土器が確認されていない。
- ② 区画範囲の確認  
「内郭」の南端や、北側に所在する可能性のある別の区画等、関連する区画の範囲が分かっていない。
- ③ 東山道駅路跡の確認  
これまでの調査成果から、本遺跡周辺には東山道駅路が設けられていた可能性が高いが、まだ遺構は確認されていない。

● 参考

官衙とは「国家による人々の統治や行政に関わる諸行事・諸実務を執行する機関・組織と、それを執行する場所や諸施設とを含めた、一般普通名詞としての役所・官庁」(奈良文化財研究所 2003)とされています。具体的には、各種行政機関・施設であり、主な地方官衙としては以下のものがあります。

- 地方行政施設 …… 国・郡ごとに設けられた「国府」・「郡衙」及びその出先機関、ほか
- 交通施設 …… 幹線道路沿いに設けられた「駅家」、海路・河川沿いに設けられた「津」、ほか
- 軍事施設 …… 東北地方の「城柵」(多賀城等)、駐屯施設等からなる「軍団」、烽火台である「烽」、ほか

引用元 奈良文化財研究所 2003『古代の官衙遺跡 I 遺構編』

本日、市内文化施設ではこんな展示もやっています		
なす風土記の丘湯津上資料館 企画展 「縄文王国大田原！」 R5.9.30~11.19	黒羽芭蕉の館 パネル展 「黒羽大関家の家譜が語る中世の黒羽」 R5.10.28~11.12	那須与一伝承館 特集展 「親園」 R5.10.5~12.3

さらどうえのはら2いせき  
佐良土上の原Ⅱ遺跡

—東山道駅路跡及び関連遺跡発掘調査事業—  
栃木県大田原市佐良土地内

現地説明会資料

令和5(2023)年11月3日(金・祝)  
大田原市教育委員会事務局 文化振興課  
栃木県大田原市本町1-4-1  
電話 0287-23-3135

大田原市では、平成31(2019)年から令和3(2021)年までの3年をかけ、本市の特色ある歴史文化を保存・継承していくと共に、活用していくための文化財行政のアクションプランとして「大田原市文化財保存活用地域計画」を策定しました。

本遺跡が位置する湯津上地区は国宝「那須国造碑」や国史跡「侍塚古墳」が残り、市内でも特に重要な遺跡が集中しています。さらに、古代の都と地方を結んだ7つの幹線道路の内の1本である「東山道駅路」やその中継施設である「駅家」も設けられた、日本の古代史を考える上で極めて重要な地域でもあります。

市では令和元(2019)年から、この地域に残る重要遺跡の保存・整備・活用を検討していくため、遺跡の範囲・内容を確認する調査を継続しており、東山道駅路及び関連遺跡発掘調査事業による調査は今年度が5年目に、古代官衙関連遺跡と推定される佐良土上の原Ⅱ遺跡の調査は3年目になっています。

● 歴史的背景 ※発掘調査の成果は今後詳細を検討

世紀	日本史の出来事	那須地域の出来事	発掘調査の成果
7	603 聖徳太子が冠位十二階制定 645~ 大化の改新 667 白村江の戦い 672 壬申の乱	7世紀半ば 浄法寺廃寺建立 689 那須直韋提、評督に就任 7世紀末~8世紀初 那須官衙成立 700 那須直韋提死去→国造碑建立	7世紀末 この頃に佐良土上の原Ⅱ遺跡成立か(SI08)
8	701 大宝律令制定 710 平城宮遷都 794 平安京遷都	728 白河に軍団設置 747 下野国から黄金産出の報告 761 下野薬師寺に戒壇設置	8世紀 佐良土上の原Ⅱ遺跡の区画溝(SD03)が使われ始める 8世紀後半 小松原遺跡成立
9	802 坂上田村麻呂が胆沢城造成 805 徳政相論 878 元慶の乱 899 坂東で群盗(隼馬の党)横行	835 健武山神社、産金により従五位下に 843 丈部益野、開発奨励により外従五位に 848 奈(那)須直赤龍、白河郡大領に	9世紀 佐良土上の原Ⅱ遺跡終焉 9世紀後半頃 小松原遺跡を東山道が走る
10	935~ 平将門の乱	10世紀半ば 那須官衙終焉	10世紀 小松原遺跡終焉

● 遺跡の所在

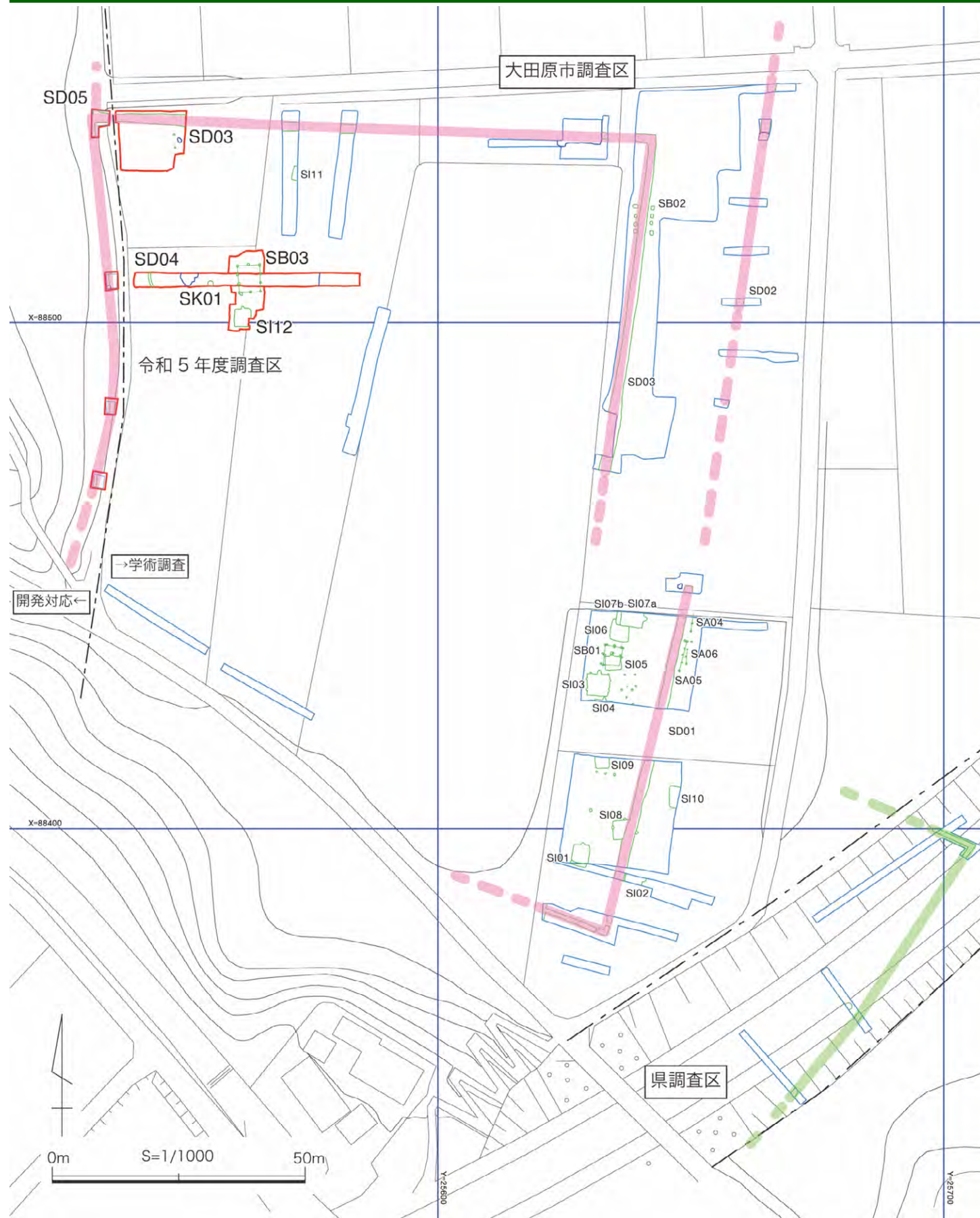


本遺跡は大田原市南部の那珂川町との市町境付近、那珂川と箒川の合流地点の丘陵先端に位置します。

これまでの調査でなす風土記の丘湯津上資料館北側及び那須官衙遺跡で東山道駅路跡と推定される道路遺構が見つかっており、本遺跡はおおよそその中間にあたります。

(地図は縮尺1/75000、地理院タイル及び栃木県森林資源データ(2021・2022年計測)を下図に作成したものを示します。)

● 発掘調査の進捗状況



今年度、本遺跡では2つの発掘調査を行っています。(上図の赤枠範囲内)

- 学術目的 : 11/3(金・祝)の現地説明会で見学できる範囲、9/11(月)より表土掘削開始
- 開発対応 : 配水管計画に伴い、10/11(火)・12(水)に調査した範囲

● 遺構毎の調査状況

SD03 掘削完了状況(東から)



溝の幅は最大約 2.3m。現代に削平される前は3m程の幅があったと考えられる。

SD03 遺物出土状況(南西から)



出土遺物は少なく、溝が半ば埋まった後の高い場所から出土したものが多く。

SI12 遺物出土状況(北西から)



一辺 3.5m ほどの正方形に近い形の竪穴建物跡。北側半分を掘削して調査。

SI12 遺物出土状況(南西から)



カマド(写真左奥)の前面を中心に遺物が出土。破壊されたカマドの破片も多量に出土している。

SI12 鉄製紡錘車出土状況



竪穴建物の北西隅、床面より 30cm ほど高い場所から水平に出土。

SB03 調査状況



南北 4 本、東西 3 本の計 10 本柱からなる掘立柱建物跡。